

# 市立中央病院の経営状況

市立中央病院は、上十三地域保健医療圏の中核病院として、急性期医療（救急医療と比較的重い疾患に対応する医療）を展開する中、医師の臨床研修病院としての役割や小児医療、精神医療などの不採算部門の医療提供にも力を入れてきました。

しかし、患者数の減少に加え、新病院の建設費償還や維持費の増大に伴い、平成21年度末には約17億円の不良債務の発生が見込まれており、市財政への影響が懸念されています。

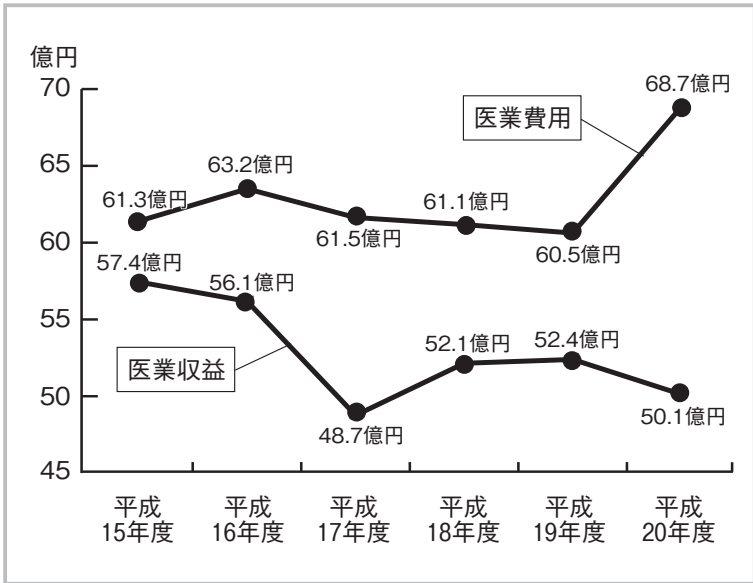
2月6日(土)に開催された第1回十和田市立中央病院経営改革検討委員会では、これまでの市立中央病院の「医業収支や患者の推移などが報告されました。」



## 医業収支の推移

グラフは、平成15年度から20年度までの医業収支の推移を表しています。

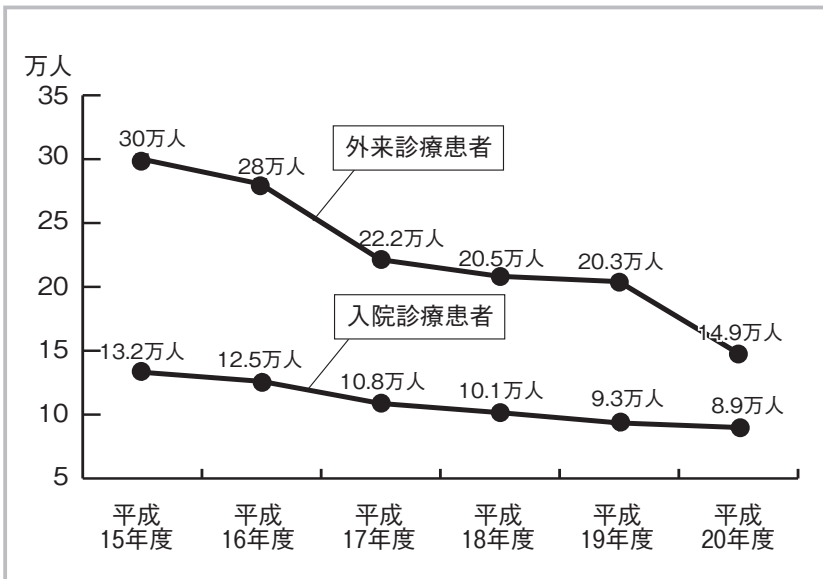
外来受診料や入院代などの医業収益は、平成15年度の57億4千万円から20年度の50億1千万円に減少しています。医業費用は、新病院の建設により医療機器の保守点検費用、光熱水費、減価償却費のほか、不要となった医療機器などを除去するための費用などが増加し、平成20年度に68億7千万円になっています。



## 外来診療患者と入院診療患者の推移

グラフは、平成15年度から20年度までの外来診療患者と入院診療患者の推移を表しています。

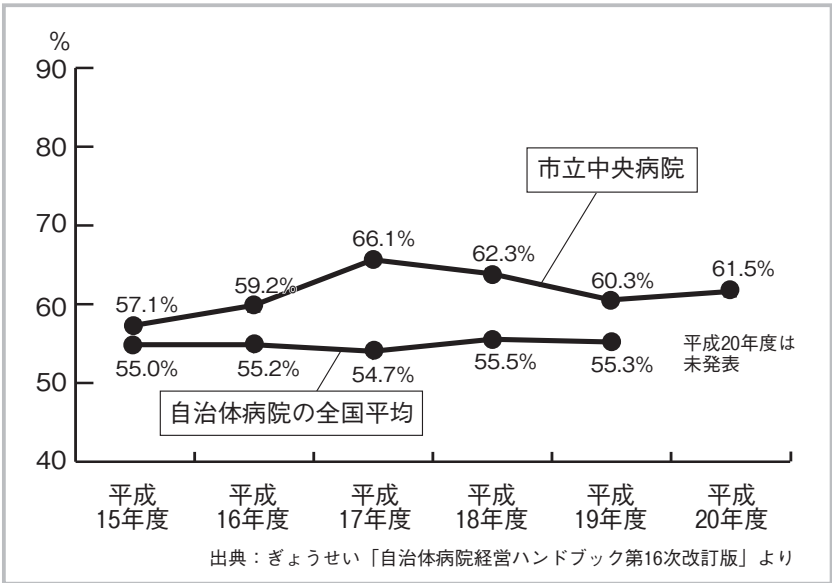
外来診療患者は、平成15年度の30万人から20年度に14.9万人に減少しています。入院診療患者は、平成15年度の13万2千人から20年度に8.9万人に減少しています。患者の減少した主な要因は、慢性的な医師不足などによるものです。



## 全国の自治体病院と比較した給与費比率の推移

グラフは、平成15年度からの市立中央病院と全国自治体病院の給与費比率の推移を表しています。給与費比率とは、外来受診料や入院代などの医業収益に対して、医師や看護師などの給料の割合を示すものです。

市立中央病院の給与費比率は、全国平均と比べて高くなっています。特に平成17年度に高くなっている要因は、医業収益の減少によるものです。



## 企業債残高の推移

グラフは、平成15年度から20年度までの企業債残高の推移を表しています。

病院の建設や医療機器などの購入費用に充てられる企業債（長期の借入金）の残高は、平成19年度から急増しています。増加した主な要因は、病院の増改築事業によるもので平成19年度は77億円を借り入れ総額149億円、20年度は13億円を借り入れ総額173億円となっています。

また、平成20年度は不良債務の解消を図るために、約13億円の公立病院特例債を発行し、企業債への支払い利子は3億円となっています。

